

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
どんなレベルでもどんな学びでも
- 3 **中国語の学び方**
四声の学修法(一)
- 4 **中国語でどういう？**
「どう思う？」
- 5 **中国語と日本史**
梅蘭芳と臉譜にどうルビをふるか
- 6 **看图学谚语**
絵で見ることわざ(2)
- 8 **紛らわしい文法表現**
“能/不能 V P”と“V 得/不了”
- 10 **ことば雑記**
半世紀前の中国語(一)
- 11 **読者の広場**
中検 2 級に合格して
実力養成通信添削講座 3 級を受講して
- 12 **アンケート**

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

どんなレベルでもどんな学びでも

日本中国語検定協会評議員・埼玉県立和光国際高等学校 藤井 達也

県立高校で教えているため当然人事異動がある。私事であるが昨年4月に異動して、長らく勤務した学校とは雰囲気の違うところに身を置くこととなった。いや、現在勤務している学校の方がどちらかというと一般的であり、それまで勤務していた学校が特殊だったのだが、長らく夢中で教えていてそのことを忘れ、私がそう感じてしまったのだ。

前任校は、中国語科目が1年生から週4コマあり、3年生までに最大18単位学べる。英語よりも中国語の授業の方が多い高校生活を送る生徒もいたし、卒業までに中国語検定2級に合格するものもいた。

今の高校は、外国語科は1年生から週2コマ独仏中西の中から選択して3年生まで学習でき、普通科の生徒は3年生で週3コマ選択できるが、学習時間数は比較するとかなり少ない。

今年は3年生の週3コマの選択科目を受け持っている。正直どこまで進めるだろうかという気持ちを抱えたまま新学期が始まった。生徒たちは口を大きく開けてガンガン発音させられ、面食らっているものの、楽しく声を出している。10連休も何のその、6月には会話のペア練習がたどたどしくも発表できるようになった。

ネイティブ講師とチームティーチングの時間で「文革」について話が及ぶと興味深く聴いている。“-n”と“-ng”の発音の違いと日本語の漢字の音読みとの関係を投げかけてみるとうがった見方も出た。続いて「熊」という字の日本語の音読みに話題が移ったりした。そんな生徒たちの表情を見て、私は心の中でにんまりとしていた。

違う言語を学ぶということは、今までとは違った世界の切り取り方を知ることだ、という言葉がある。そして、それは自分たちの母語による物事を見る見方を気づかせてくれることにもなる。大げさかも知れないが、そんな動き・変化が彼らの頭の中で起こっているように思えたのだ。この、新鮮なものに触れた喜びや世界が広がった感覚は、高いレベルの学習でなくともいろいろな学びの過程で起こるもの。まさに語学を学ぶことの醍醐味であり、前に進む力だ。こんなことを漠然と感じていたら、生徒から声があがりハッとした。「先生、何だかうれしそう。」

また、英語以外の外国語の先生は非常勤なので授業の時以外は外国語科準備室にいらっしやる。職員室に常時いる、英語以外の外国語を教える教員は私が初めてらしい。先生方が、中国社会や中国語に関する、所謂素朴な質問を投げかけてくることもある。「“谢谢”は知っているけど、どう返せばいいの?」「中国の人は烏龍茶を飲んでいるんですね」etc. 英語の先生と言語学談義になることもある。やりとりしながら、学習の場があるということは様々な広がりを生むものだと感じている。

四声の学修法(一)

県立広島大学 侯 仁鋒

日本中国語教育界では発音重視というコンセンサスがある。例えば「中国語は発音良ければすべてよし」と相原茂先生（2001）は言う。また、荒川清秀先生（2011）は「中国語は発音が命である」と言い、そのうち四声はカギであり、そしてその一声はスタンダードであるという意味のことを語る。一方、発音のシステム（調音点、調音法など）は中国語と日本語においてかなり違うので、中国語の発音、特に四声の習得は難しくてうまくいかないという声が学習者からよく聞こえてくる。

さて、中国語の四声をどうやって勉強すればよりよくしかりと身に付けることができるかについて、全く未熟だが、習得法を一つ紹介させていただきたい。

【ステップ1】 単音節語（一文字）の四声をしっかり練習して基本の基本を作っておく。ほとんどの教科書にある“ma”の四声でもけっこうである。

mā (妈) má (麻) mǎ (马) mà (骂)

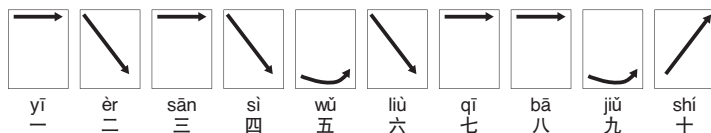
これはすぐにできるのではないかとわれそうだが、問題は定着したかどうかである。定着していなければ、全然勉強していなかったに等しいと言いたい。もしそうだったら、中国語の勉強に大事な発音において入門の最初でもはや失敗したということになる。

是非この失敗を避けていただきたい。避ける方法は簡単で、ただ根気のみ必要である。ご経験済みのように単音節語の四声そのものは易しい。定着まで必要なのは単純でつまらない繰り返しの練習だけである。言わばこれは勝負のカギであろう。

この場合の定着はどういうことかと言えば、しっかりと自動化されている状態になればなるほど望ましい。これが一旦型として出来上がれば、単音節語の四声はスムーズに発音できるはずであり、四声の習得は軌道に乗ったとも言えよう。

因みに、ある統計によれば、日常会話において、単音節語の使用率は61%に達すると言われている。このことから単音節語の四声が正確で、かつすらすら自然に発音できることがいかに必要不可欠で、大事であるかがお分かりいただけるかと思われる。

【ステップ2】 一から十までの数え方（その発音）は、中国語を勉強する以上覚えなければならないものの一つである。それを要領よくすらすら言えるようにして、二音節語の練習の渡橋としても利用する。この練習の中で、特に一声を下図のように高く発音するイメージで練習することが肝要である。これでちゃんと四声のスタンダードを作っておこう。



「どう思う？」

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

初級段階で“你说呢？”は一般に“どう思う？”の意味を持つ表現として学習されるが、この“你说呢？”にはコミュニケーションにおいてより難しくて便利な使い方がある。まず“どう思う？”の例から見ていこう。

(1)我看这种材料挺不错，你说呢？（この材料がなかなかいいと思うが、どう？）

(2)我们还是给他打个电话吧，你说呢？（やはり彼に電話しよう、どう思う？）

上の例では、まずある考え方を示した上、その考えについて相手の意見を求めるという二段階の使い方である。“说”は「(意見や考えを)言う」などの意味で、“呢？”は“我不去，你呢？”（わたしは行かないが、あなたは？）の“呢”と同じで、疑問文に用いられ、自分の疑念を投げかけ、回答を求める意味なので、“你说呢？”は「あなたが言うところは？＝(こういう意見や考えがあるが、)そちらの意見は？」となるのだ。前段部分は次例のように話し手の考えや意見でなくてもよい。

(3)他们说要去黄山，你说呢？（彼らは黄山に行きたいと言うが、どう思う？）

ところが、実際のコミュニケーションでは前段の「こういう意見や考えがあるが」という部分は時々はっきりしない形になる。この場合、一般に会話において前段と後段が別々の人によって表現される。

(4)A：我出差那些天，你想我了吗？（出張の間、僕のこと、恋しく思った？）

B：你说呢？（どうでしょう？）

(5)A：看他那么累，明天不会来了吧？（彼はあんなに疲れてしまって、明日はもう来ないだろう。）

B：你说呢？（君ならどう思う？）

前段でAが質問(4)や推測(5)をして、回答を求めているのに、後段のBは“你说呢？”で聞き返す形で応じているから、本当に知らないか、言いたくないか、言いにくいかのどちらかになるだろう。(4)は質問をかわしているのが見え見えだ。

ところが、次の“你说呢？”はどういう意図で発話されたものだろうか。

(6)A：哟，车没油了！（おや、ガソリンがもうない！）

B：那得先加油，再去公园啦。（じゃあ公園へ行く前に、まずガソリンを入れないとダメだね。）

A：你说呢？

前段，“那得先加油，再去公园啦”は「誰が考えてもそうであるべきこと」なのに、それを確認の口調で話すBにAが“你说呢？”で突っ込む。この場合、「当たり前じゃないか」などの日本語がいちばん近いだろう。質問よりも疑念を主に表す“呢”は「じゃないか」ほどのきつさはないが、冷静な突っ込みだ。なんだか逆に怖い。

意見を求め、質問をかわし、突っ込みをする、便利屋だが、難しい“你说呢？”だ。

梅蘭芳と臉譜にどうルビをふるか

日本中国語検定協会評議員・明治大学 加藤 徹

筆者の専門は京劇である。日本語は難しい。ルビのふりかたで、しばしば迷う。みなさんなら、以下の単語にどうルビをふるだろうか。

京劇 梅蘭芳 『三岔口』 任堂惠 臉譜

京劇は、今はキョウゲキと読むが、大正から昭和中期まではケイゲキと読んだ。「京」の呉音・漢音・唐音はそれぞれキョウ・ケイ・キンだ。京劇は「北京の劇」の意だが、京劇をキングキと読む日本人はいない。筆者が大学生だった1980年代、すでに一般人の読み方はキョウゲキだったが、お年寄りはまだケイゲキと呼んでいた。文革期の「革命京劇」あたりがケイゲキからキョウゲキへの転換点だった。

1919年（大正8年）、京劇のおんながたの名優・梅蘭芳（1894年－1962年）の一座が初来日し、東京・大阪・神戸で上演した。百周年にあたる今年は中国と日本で記念の公演やシンポジウム、展示会などが開催されている。

梅蘭芳の至芸に心酔した知識人は多い。随筆『侏儒の言葉』のなかで京劇の「哲学」を特筆した芥川龍之介も、梅蘭芳の舞台を見て『断腸亭日常』で絶賛した永井荷風も、『婦人之友』大正8年7月号に熱烈な詩「梅蘭芳に贈る歌」を寄稿した与謝野晶子も、メイランフワン（大正時代のルビ）と呼んだ。昭和中期以降は「メイランファン」とルビをふる。「ばいらんほう」とは呼ばなかった。

孫文も魯迅も袁世凱も蒋介石も、近代中国の著名人の名前のルビは日本漢字音だ。梅蘭芳は例外である。日本史上、中国語の原音による発音で名前を記憶された最初の著名人は、政治家でも文学者でもなく、舞台芸術家だった。

梅蘭芳は戦後の1956年にも京劇団の団長として来日した。この公演以来、京劇の人気演目『三岔口』は、日本でも中国漢字音にあわせて「さんちゃこう」とルビをふる。日本漢字音でのルビなら「さんたこう」が正しいはずだが。

ただし『三岔口』の主人公の名前「任堂惠」のルビは「じんどうけい」。「任」の呉音はニン、漢音はジン。唐代の伝奇小説『任氏伝』をジンシデンと読むのと同様、中国古典の固有名詞はなるべく漢音で読む、という原則を守る。

それなのに、京劇の「臉譜」（くまどり）や「小花臉」（道化役）の「臉」は、なぜか呉音でレンと読む。臉の音読みは、セン（呉音・漢音）、ケン（呉音・漢音）、レン（呉音）、ラン（漢音）など異読が多い。「臉譜」のルビは「れんぷ」が主流だが、たまに「けんぷ」もある。なお、1996年製作の中国映画『變臉 この權に手をそえて』（中国語の原タイトルは《變臉》）の「變臉」には、「へんめん」という、ありえないルビがふられていた。どうせならタイトルも「変面」とすれば良かったのに。

近年の京劇公演でも、出演者の名前や術語のルビは、悩ましい問題だ。日本語の漢字の読み方は複雑すぎる。中国漢字音のシンプルさが羨ましい。

絵で見ることわざ(2)

絵・張 恢

文・『中国語の環』編集室



財大招禍，樹大招風

cái dà zhāo huò, shù dà zhāo fēng

大金を持っていると災いを招きやすい、木は大きいと風当たりが強い。出る杭は打たれる。



车到山前必有路

chē dào shān qián bì yǒu lù

車が山に行きついても必ず道を通じるように、どんな困難にも解決策がある。窮すれば通ず。案ずるよりも産むがやすし。



城门失火，殃及池鱼

chéngmén shīhuǒ, yāng jí chíyú

城門で火事が起きますと、(火事を消すために池の水を使い果たすので) 災いが堀の魚に及ぶ。池魚の殃(わざわざい)。そば杖をくう。巻き添えをくう。



草生一秋，人生一世

cǎo shēng yī qiū, rén shēng yī shì

春に咲いた草花が秋には枯れてしまうように、人の一生は極めて短い。青春を無為に過ごすことを戒める。“人生一世，草生一秋”とも。



成者王侯，败者为贼

chéngzhě wánghóu, bàizhě wéi zéi

勝者は王侯(王と諸侯)となり、敗者は賊呼ばわりされる；勝てば官軍，負ければ賊軍。“成者为王，败者为寇”とも。



秤锤虽小压千斤

chèngchuí suī xiǎo yā qiānjīn

はかりの分銅は小さくても重い物をはかることができる；山椒(さんしょう)は小粒でもびりりと辛い。“秤锤”は“秤砣”(chèngtuó)とも。



吃水不忘挖井人

chī shuǐ bù wàng wā jǐng rén

水を飲む時は井戸を掘った人の恩を忘れない。“吃水”は“喝水”，“挖井”は“掘jué井”とも。成語“饮水思源”(yǐn shuǐ sī yuán)も同義。



初生之犊不怕虎

chū shēng zhī dú bù pà hǔ

生まれたばかりの子牛は虎をも恐れない；無鉄砲であること、怖いもの知らずであることのたとえ。“～，长出犄角jījiǎo反怕狼”と続けて使うことも。



春雨贵如油

chūnyǔ guì rú yóu

春の雨は油のように貴い。清明節の前後，種まき時期の雨は農民にとってこの上なく貴重であることをいう。



尺有所短，寸有所长

chǐ yǒu suǒ duǎn, cùn yǒu suǒ cháng

1尺あっても短いこともあれば，1寸でも長すぎることもある；人にはそれぞれ長所もあれば短所もある。縮めて“尺短寸长”とも。



春宵一刻值千金

chūnxiāo yī kè zhí qiānjīn

春宵(しゅんしょう)一刻値(あた)い千金；春の宵(よい)のひとときは千金にもかえがたい価値がある。蘇軾の『春夜』詩の第一句から。



聪明反被聪明误

cōngmíng fǎn bèi cōngmíng wù

知恵のある人間は自分の知恵に頼りすぎて，かえって自滅する；策士策におぼれる。蘇軾の詩句にもとづく。

“能/不能VP”と“V得/不了”

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

前回は“V得/不了”を二分類した上で、Vの実現の可能を表す“V得/不了”を“V得/不了₍₂₎”とし、また“V得/不了₍₂₎”をAタイプとBタイプに分類しました。このうち、Aタイプは話し手が客観的な事実に基づく判断を伝えている場合です。以下に“V得/不了₍₂₎”のAタイプを簡単に“V得/不了”と称します。

関連している可能表現である“能/不能VP”は上記のAタイプと同じく、話し手が客観的な事実に基づく判断を伝えている表現です。そのため、両者の使い分けが問題となります。

そもそも“能/不能VP”では、VPは複雑な構造でもいいですが、“V得/不了”では、“V得/不了”のあとに目的語（以降にOとする）しか用いることはできません。そのため、構文において両者の使い分けが生じる範囲は、“能/不能V(O)”と“V得/不了(O)”に限られています。

まず、“能V(O)”と“V得了(O)”の使い分けを見てみましょう。

“能V(O)”はVを実現するための主体の能力条件、主体の意思条件、外的な条件がすべて備わっていることを表します。単に“我能去”という、“去”を実現するための能力条件、意思条件、外的な条件が全部備わっているわけです。しかし、文脈に応じて、一つの条件にフォーカスを当てる場合が多いです。たとえば、

(1)他病好了，能上（*上得了）课了。

（彼は病気がよくなったので、授業に出られるようになった。）

(2)这个工作交给小王最放心，不知道他能不能干（*干得了干不了）？

（この仕事は王さんに任せると一番安心だが、彼がやるかは分からない。）

(3)我们有了粮食，棉花和其他东西，才能翻（○翻得了）身。

（私たちは食糧，綿などの物があってはじめて解放ができると言える。）

例(1)では“病好了”という能力条件に、(2)では彼がやる気があるかどうかという意思条件に、(3)では“有了粮食，棉花和其他东西”という外的な条件にフォーカスを当てています。

一方、“V得了(O)”はVを実現するための主体の能力条件および外的な条件が備わっていることを表します。主体の能力条件、外的な条件を必要とする点においては、“能V(O)”と同じですが、意思条件は排除されます。そのため、(2)では“能不能”は意思条件を問題としているため、“干得了干不了”にすることができません。意味からだけ考えると、(1)も(3)も“V得了(O)”に変換できるはずですが、実際に(1)のように“V得了(O)”が使えない場合が極めて多いです。そのため、例(4)のような場合以外は、“能V(O)”を使うのが無難です。

(4)这个工作，其实小王也干得了（*能干），不知他干不干？

(この仕事は実際のところ王さんにもできるが、本人がやるかは分からない。)

例(4)では、主体である“小王”の意思がまだ分からなく、能力にのみフォーカスを当てているため、“V得了(O)”は使えますが、“能V(O)”は使えません。

次に“不能V(O)”と“V不了(O)”の使い分けを見てみましょう。

“不能V(O)”はVを実現するための主体の能力条件、主体の意思条件、外的な条件のうち一つ以上が備わっていないことを表します。単に“我不能去”という、どの条件が備わっていないかは分かりませんが、文脈に応じて、一つの条件にフォーカスを当てる場合が多いです。例えば、

(5)今天他有病了，不能上(○上不了)课)了。

(今日彼は病気で授業に出られなくなった。)

(6)今天下雨了，不能去(○去不了)颐和园了。

(今日は雨だから、颐和園には行けなくなった。)

(7)我不能服侍(*服侍不了)你一辈子。我的理想是快快乐乐过一生。

(私は一生あなたの面倒を見ることができない。私の理想は楽しく人生を過ごすことです。)

“V不了(O)”は能力条件または外的な条件が備わっていないことを表します。(5)(6)では、それぞれ能力条件、外的な条件が備わっていないことによって、Vが実現できないことを示しているため、“不能V(O)”を“V不了(O)”に言い換えることができます。しかし、(7)では、意思条件が備わっていないことによって“服侍”ができないことを示しているため、“不能服侍”を“服侍不了”に言い換えることはできません。

反対に、“V不了(O)”を“不能V(O)”に置き換えられないのは、置き換えることによって、意思条件として捉え得る場合です。例えば、

(8)你呀，看不起我，怕我给不了(*不能给)房租。

(あなたね、私を見下しているのね。家賃が払えないことを心配しているのね。)

例(8)では、“怕我给不了房租”において、私が家賃が払えないことを心配しているが、これを“怕我不能给房租”にすると、私があえて家賃を払わないことを心配するという意味に捉え得るため、“不能给房租”を用いることはありません。

すなわち、Vが実現できない条件から意思条件を排除したい場合、“V不了(O)”を用います。例えば、“我哥哥救不了我”という、兄には私を救う能力条件や外的な条件がないと理解されるが、“我哥哥不能救我”にすると、兄には私を救う意思がないと理解されます。“V不了(O)”は意思条件を排除することができるため、よく断り表現として使います。助けを求められたときに“帮不了”と、上司から仕事を頼まれたときに“干不了”と、友達に誘われたときに“去不了”という表現を使えば、条件を付さなくても失礼になることがないでしょう。

ここでは、意味においては“不能V(O)”も“V不了(O)”も能力条件や外的な条件が備わっていないことを表すことができるため、両者が交換可能であるという結論に至りましたが、しかし語用上の理由で交換できない場合もあります。次回で説明します。

半世紀前の中国語(一)

日本中国語検定協会理事 上野 恵司

中国語を習い始めて優に半世紀を超える。さまざまの授業をさまざまの教科書で受けたが、最も印象に残っているのは倉石武四郎先生の『小学語文』である。1950年代の中国の小学校の教科書のガリ版刷りのプリント（後に単行本として日中学院から）と教科書付属の録音テープを併用して先生ご自身が囁んで含めるように丁寧に講義をされた。先生に「強要」されて暗記した課文の大半を、わたくしは今も誦んじることができるが、そこで覚えた単語の発音の中に今日の規範と異なるものがあり、戸惑いを覚えることがしばしばある。

例えば季節や年月、場所を表す以下の語は今日の規範ではすべて非轻声であるが、テキストでは一律に轻声扱い。現実の言語生活では、まだ轻声に発音されているのをしばしば耳にする。

春天chūntian 夏天 秋天 冬天 今年jīnnian 前年 去年 明年 后年

今天jīntian 前天 昨天 明天 后天

上面shàngmian 下面 前面 后面 里面 外面

以下の名詞もすべて第2音節は轻声であった。

背后 错误 跟前 韭菜 近来 命令 旁边儿 苹果 人家 生活 声音 时间 太阳

天气 秩序 蜘蛛

このうち“跟前”は「そば、かたわら」の場合は非轻声gēnqián、子供の有無という場合の「ひざもと」は轻声gēnqianというのが今日の規範であるが、テキストでは前者の用法であるにもかかわらず轻声であった。

同様に“人家”も「人が住む家」の場合は非轻声rénjiā、「ひとさま、他人」の場合は轻声と使い分けることになっているが、テキストでは前者「人が住む家」でありながら轻声に読まれていた。

“太阳”は轻声tàiyang。《现代汉语词典》はずっと非轻声であったが、2012年6月刊の第6版からtài・yángと轻声と非轻声の両方を認めるようになった。

これは轻声か非轻声かではなく声調の変化に属する問題であるが、時間を表す“一会儿”“这会儿”“多会儿”の“会儿”はテキストではhuìrと第3声であったが、今は第4声huìrである。ただし、《现汉》は口語音として第3声を認めている。

確かに“一会儿”のyìhuìrはかなり根強く残っていて、教材の録音に立ち合った際に何度かyìhuìrに読み直してもらった記憶がある。

テキストには出てこなかったが、“指头”“指甲”“骨头”なども、当時はzhítou, zhǐjia, gútouで、今はzhítou, zhǐjia, gǔtouに統一されている。おかげで、“指”は「指さす」という動詞の場合は第3声zhǐで、「ゆび」の場合は第2声zhí、「つめ」の場合は第1声zhǐであるなどと講釈する楽しみが失われてしまった。なお、これらの語についても《现汉》は審音前の発音を口語音として認めている。

中検2級に合格して

関東学院大学人間共生学部コミュニケーション学科 渡邊 智子

私は大学2年生の秋にはじめて中国語に出会いました。中国語の魅力に引き込まれ、1年半という短い期間ですが、中検2級に合格できたのは以下のことによると思います。

まず初めに学習法ですが、一番有効的だったと思うのは中検の過去問を繰り返し解いていくことです。具体的には過去問を10回分、分からない問題や単語は1つもないようにしてから受験をしました。どの過去問を解いても満点が取れるように繰り返し勉強することが大切だと思います。毎回の受験目標に向け、学習計画を予め立てることも大切だと考え、毎朝、その日の勉強範囲を決め学習意欲の持続に心がけていきました。

次に、中国人と積極的に交流したことだと思います。私は自分の中国語は下手で恥ずかしいと思っていましたが、恥ずかしいと思っていると、いつまでたっても成長することができないと気付きました。中国語を学ばなければ分からなかった中国の良さや中国人の優しさにふれることができました。

最後ですが、中国語を学ぶ楽しさを教えていただいた先生存在です。中国語学習を通じて、挑戦する勇気の大切さも教えていただきました。学外の中国語弁論大会では自分よりもレベルの高い人を見て刺激を受けることができ、中国語作文コンクールでは「なぜ中国語を勉強するのかを自身に問いかけ、夢を明確にしていくこと」ができました。中国語を学ぶ中で思うように進まず苦しい時、いつも私の背中を押してくださった先生がいたことが、私の自信につながっていきました。

私は将来日中友好の人材となってすべての方に恩返しをしたいと思っています。感謝！

実力養成通信添削講座3級を受講して

新潟県 Y

私は第96回中国語検定試験3級（2018年11月実施）を受験いたしましたが不合格だったため、日本中国語検定協会から案内のあった2019年1月開始の「実力養成通信添削講座3級」に申し込みました。第97回3級（2019年3月実施）の申込みは講座の途中であるため、どうしようかと迷いましたが思い切って受験いたしました。全く自信はなく「ダメだろう」と思っていたのですが、何と「合格」の判定をいただきました。嬉しさよりも驚いています。まだ信じられません。夢のようです。これも毎回の質問に優しく答えていただいた上野先生のわかりやすい説明のおかげと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

合格の喜びはここまでにして奥深い中国語の学習を今後も進めていきたいと思っています。したがって「実力養成通信添削講座3級」は最後まで続けたいと存じますので、これからもよろしくご指導をお願いいたします。

アンケート

今後の参考といたしますので、アンケートにご協力ください。

ご協力いただきました方には、抽選で上野恵司著『ことばの散歩道』または『中日語言文化漫歩』（『ことばの散歩道』日中対訳版）をお贈りいたします。

(1)これまででおもしろかった記事や役に立った記事とその理由をお聞かせください。（複数可）

(2)これまででつまらなかった記事や役に立たないと思った記事とその理由をお聞かせください。（複数可）

(3)今後どのような内容の記事が読みたいかお聞かせください。

(4)この受験案内を入手した場所を教えてください。

① 中検ホームページから請求

② 書店・生協（店舗名

）

③ 学校・会社・カルチャースクール※差し支えなければ名称をご記入ください。

（

）

④ その他（

）

(5)中国語の学習期間をお知らせください。

(6)中検の取得級があればお知らせください。

(7)『中国語の環』に対するご意見・ご感想、当協会への要望等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは、氏名・ご住所・電話番号・年齢をご記入の上、郵送またはメールでお寄せください。

※メールでお寄せいただく場合、件名を「中国語の環アンケート」としてください。

※『ことばの散歩道』または『中日語言文化漫歩』ですすでお持ちの巻がある場合はお知らせください。

※ご記入いただいた個人情報は、賞品発送以外の目的には使用いたしません。